

# 履修科目一覧表 (ドッグトレーニングコース)

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1 年次		2 年次		
						前期	後期	前期	後期	
一般科目	◇	コンピュータ演習 I	頼實 一全	Windows、インターネット、およびオフィスソフト (Word、Excel、PowerPoint) の実用的な利用方法を修得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを修得する。	2	2				30
	◇	コンピュータ演習 II	頼實 一全	ペットショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を修得する。	2		2			30
	◇	キャリアマナー I	長澤さおり	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学びます。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象もぐっと向上します。人に喜んでもらえる対応ができるように、自分を見つめ、知識と教養を身につけていきましょう (サービス接遇 2 級取得を目指す)。	2	2				30
	◇	キャリアマナー II			2		2			30
	◇	コミュニケーションワーク	久保園明美	ホスピタリティ・トレーニングを中心に相互の快い関係を生み出す技術を体得すると共に、多様なレクリエーションを自ら実行できるように基礎的な技術能力の修得、向上を目指す。	2	2				30
	◇	キャリアデザイン	頼實 一全	自分自身の職業人生やキャリアについて、自らが主体となって構想・設計し、実現していくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んでいく。	2	2				30
	◇	RS 特別講義	未 定	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2		2			30
専門科目	◇	イベント運営論	久保園明美	各種イベント事業の起こし方や継続する方法について理解を深める。	2		2			30
	◇	動物ビジネス概論	喜多 秀樹	実際に動物関連の職種に従事している外部講師並びに動物業界の深い専門知識を持たれている人達からの講義を聞き、自分自身の将来像を考える。	2	2				30
	◇	動物飼養管理学 I	湯浅 倫枝	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼養及びペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の修得を目標とし、同時に愛玩動物飼養管理士 2 級資格取得を目標とする。	4	2	2			60
	△	動物飼養管理学 II	奥田 宏健	社会的期待が高まっている愛玩動物飼養管理士 (2 級) 資格所有者を対象に、さらに理論的、科学的に理解を深め、実践的応用力を高める。同管理士 1 級資格取得を目標とする。	(4)			(2)	(2)	(60)
	◇	小動物飼育学	安達 萌花	犬や猫が健康に在るための動物の扱い方・飼育方法・掃除の仕方などの知識を学ぶ。	2	2				30
	◇	産業動物飼育学 I	安達 萌花	家畜飼育の基礎を学ぶことにより、野生動物、家庭動物の位置付けと管理の有り様を実学に即して学習するとともに、産業動物部門への職域の拡大を図る。	2		2			30
	◇	人と動物の関係学	湯浅 倫枝	人と動物の関係についての歴史から動物愛護・動物福祉について考え、動物介在活動および教育について学ぶ。またペットロスにおける飼い主へのサポートについても学ぶ。	2	2				30
	◇	動物形態機能学	安達 萌花	獣医学の基礎である解剖・生理学は、動物を飼育管理する上で必要な知識・技術習得に必須の科目である。犬と猫を中心に、動物の複雑な体の構造と機能について、系統的に理解させる。	2	2				30
	◇	動物疾病看護学	亀森 泰之	動物の病気は、その種類、原因、症状だけを見ても多種多様である。動物の専門家として最低知っておくべき動物の病気について、組織器官系統別に分類して理解させる。	2	2				30
	◇	寄生虫学・感染症学	安達 萌花	生物は、長い進化の過程で異種の生物との関係を調整しながら生きてきた。その関係は、共生的であったり、寄生的であったりする。特に、ペットと病原体、ペットと寄生虫について科学的に系統的に学ばせ、診断・治療・予防について必要な知識と技術を学ばせる。	2	2				30
◇	繁殖飼養管理学	安達 萌花	神秘的と思われていた動物の繁殖や遺伝のメカニズムは、科学的に解明されてきた。この繁殖生理を、詳しく理解するとともに、ペットや産業動物の繁殖について学ぶ。また、ペット業界や畜産業の現場での理論や実践を学ぶとともに、生命の尊厳と多様性の保持などについても、ヒトと動物の関係の中で考えさせる。	2		2			30	
◇	小動物栄養学 I	南 奈緒子	学校で飼育する動物の食べているものから、動物の栄養についての基礎を学び、犬や猫の管理の知識を深める。	2	2				30	

## (ドッグトレーニングコース)

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
専 門 科 目	◇	小動物栄養学Ⅱ	南 奈緒子	栄養素についての一般常識と、小動物の種や年齢やライフステージによる給餌の実際を修得させ、ペットフード安全法を学ぶ。	2		2			30
	◇	エキゾチックアニマル概論	安達 萌花	犬猫以外の愛玩動物全般についての知識を身につけさせ、種によって異なる飼育環境の整備から健康管理を身につけさせる。	2	2				30
	◇	公衆衛生・関係法令	安達 萌花	獣医公衆衛生は動物の健康を介して人間の健康に寄与する教科である。近年の人・動物の共通感染症や生存環境を疫学的及び系統的に理解させる。	2		2			30
	◇	初級トレーニング理論	湯浅 倫枝	犬のしつけ・トレーニングに必要な道具や健康管理の方法、また、犬に関する競技種目について学ぶ。	2	2				30
	◇	中級トレーニング理論	湯浅 倫枝	初級で学んだ知識を基に、犬の行動を深く掘り下げ、トレーニングにどのようにつなげていくかを学ぶ。	2		2			30
	◇	応用トレーニング理論	安達 萌花	作業犬やドッグスポーツの犬についての知識を学ぶ。	2			1	1	30
	◇	メディカルトレーニング理論	前島さおり	愛玩動物も運動不足や栄養過多による肥満及び高齢化にともなう運動器障害等が問題となっている。人と動物が共生するために獣医学を基礎としたリハビリテーション等の知識を修得する。	4			2	2	60
	◇	動物行動学Ⅰ	湯浅 倫枝	近代的、科学的な根拠に基づいたしつけトレーニングについて理解を深める。またそれを実際に使う方法を学ぶ。	2	2				30
	◇	動物行動学Ⅱ	湯浅 倫枝	しつけトレーニング理論Ⅰより具体的にジャンル別に学ぶ。犬の種類や目的、目標により必要なトレーニングを理解し、それを組み立てる方法を学ぶ。	2		2			30
	◇	しつけ教室運営論	湯浅 倫枝	しつけ教室を開くためのノウハウを理解し、実際にできるように体験しながら学ぶ。	2			2		30
実 習	◆	グルーミング実習Ⅰ	岡本 侑也	前期では道具の使い方、動物の扱い方に慣れ、仕上げまでの細かな準備や注意点を理解し、スムーズな作業の流れを作る。	4		8			120
	◆	グルーミング実習Ⅱ		カットに細かなアレンジを加え、その犬の体型や毛質にあったカットで欠点をカバーし、オーナーの理想に近い仕上げを行う。	4			8		120
	◆	グルーミング実習Ⅲ		トレーニング犬種を中心にシャンプーセットを短時間で仕上げ標準に近い手入れを学習する。	2				4	60
	◆	グルーミング実習Ⅳ			2				4	60
	▲	ハンドリング実習	岡田隆三郎	ハンドラー資格取得を目標とする。	(1)			(1)	(1)	(30)
科 目	◆	初級トレーニング実習	松尾 里美 湯浅 倫枝	前期では、各犬種の特徴・性格を理解しながら、その犬種に合ったしつけトレーニング方法およびコントロール法を実際の犬を使って学ぶ。	4	2	6			120
	◆	中級トレーニング実習	松尾 里美	実習の初級レベルに引き続き、中級レベルでのトレーニング方法およびコントロール法を学ぶ。	4			4	4	120
	◆	応用トレーニング実習	安達 萌花	基本のトレーニングを軸に、ドッグスポーツやそれぞれの犬や年齢に対応した幅広いトレーニングを学ぶ。また、上級のトレーニングをマスターし職業犬、作業犬のトレーニングを学ぶ。	4			4	4	120
	◆	メディカルトレーニング実習	前島さおり	愛玩動物の健康管理に重要なトレーニング技術及び運動障害の改善に必須であるリハビリテーション技術を体験し、今や家族の一員である動物達の老齢介護も学ぶ。	4			4	4	120
	◆	動物看護学実習	南 奈緒子	動物看護を実践して学び、動物疾病看護学を学んだ知識を深める。	1	2				30
	◆	動物飼育実習Ⅰ	湯浅 倫枝	学内飼育動物の給餌や運動、ケージの清掃・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	2	2	2			60
	◆	動物飼育実習Ⅱ	湯浅 倫枝	飼育実習Ⅰの経験から、新入生のリーダーとなって学内犬の飼育管理を担当する。学内犬個々について更に理解を増し、体調や目的に合わせた飼育管理を実践する。	2			2	2	60
	◆	卒業研究	亀森 泰之 湯浅 倫枝 安達 萌花	動物について多角的に学んだことをより深く理解し、動物関連業務に主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	2			2	2	60

## (ドッグトレーニングコース)

	授業 形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単 位 数	週授業時間数				時 間 数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
実 習 科 目	▲	動物園実習	池田動物園 湯浅 倫枝	展示動物を飼育して社会的に多くの役割をもつ動物園での実習をと おして、多種多様な動物を身近に体験する。さらに環境問題や動植 物の種の保存について考えるとともに、広く野生動物についての知 識を得る。	(2)	(2)	(2)			(60)
	▲	インターンシップ実習		在学中に、自分の就きたい職業を職場の一員となって体験するとり 組みで、自立した社会人・職業人となるためには欠かせない実習で ある。また、就職指導のうえからも大きな成果が期待できる。	(2)			(2)	(2)	(60)
必要修得単位数・時間数					95	36	38	29	27	1,950
						1,110		840		

◇必修講義科目   △選択講義科目   ◆必修実習科目   ▲選択実習科目

# 履修科目一覧表

## (ホーストレーニングコース)

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
一般科目	◇	コンピュータ演習Ⅰ	頼實 一全	Windows、インターネット、およびオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）の実用的な利用方法を修得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを修得する。	2	2				30
	◇	コンピュータ演習Ⅱ	頼實 一全	ペットショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を修得する。	2		2			30
	◇	キャリアマナーⅠ	長澤さおり	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学びます。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象もぐっと向上します。人に喜んでもらえる対応ができるように、自分をみつめ、知識と教養を身につけていきましょう（サービス接遇2級取得を目指す）。	2	2				30
	◇	キャリアマナーⅡ			2		2			30
	◇	コミュニケーションワーク	久保園明美	ホスピタリティ・トレーニングを中心に相互の快い関係を生み出す技術を体得すると共に、多様なレクリエーションを自ら実行できるように基礎的な技術能力の修得、向上を目指す。	2	2				30
	◇	キャリアデザイン	頼實 一全	自分自身の職業人生やキャリアについて、自らが主体となって構想・設計し、実現していくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んでいく。	2	2				30
◇	RS 特別講義	未 定	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2		2			30	
専門科目	◇	イベント運営論	久保園明美	各種イベント事業の起こし方や継続する方法について理解を深める。	2		2			30
	◇	動物ビジネス概論	喜多 秀樹	実際に動物関連の職種に従事している外部講師並びに動物業界の深い専門知識を持たれている人達からの講義を聞き、自分自身の将来像を考える。	2	2				30
	◇	動物飼養管理学Ⅰ	湯浅 倫枝	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼養及びペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の修得を目標とし、同時に愛玩動物飼養管理士2級資格取得を目標とする。	4	2	2			60
	◇	小動物飼育学	安達 萌花	犬や猫が健康にいたるための動物の扱い方・飼育方法・掃除の仕方などの知識を学ぶ。	2	2				30
	◇	産業動物飼育学Ⅰ	安達 萌花	家畜飼育の基礎を学ぶことにより、野生動物、家庭動物の位置付けと管理の有り様を実学に即して学習するとともに、産業動物部門への職域の拡大を図る。	2		2			30
	◇	人と動物の関係学	湯浅 倫枝	人と動物の関係についての歴史から動物愛護・動物福祉について考え、動物介在活動および教育について学ぶ。またペットロスにおける飼い主へのサポートについても学ぶ。	2	2				30
	◇	動物形態機能学	安達 萌花	獣医学の基礎である解剖・生理学は、動物を飼育管理する上で必要な知識・技術習得に必須の科目である。犬と猫を中心に、動物の複雑な体の構造と機能について、系統的に理解させる。	2	2				30
	◇	動物疾病看護学	亀森 泰之	動物の病気は、その種類、原因、症状だけを見て多種多様である。動物の専門家として最低知っておくべき動物の病気について、組織器官系統別に分類して理解させる。	2	2				30
	◇	寄生虫学・感染症学	安達 萌花	生物は、長い進化の過程で異種の生物との関係を調整しながら生きてきた。その関係は、共生的であったり、寄生的であったりする。特に、ペットと病原体、ペットと寄生虫について科学的に系統的に学ばせ、診断・治療・予防について必要な知識と技術を学ばせる。	2	2				30
	◇	繁殖飼養管理学	安達 萌花	神秘的と思われていた動物の繁殖や遺伝のメカニズムは、科学的に解明されてきた。この繁殖生理を、詳しく理解するとともに、ペットや産業動物の繁殖について学ぶ。また、ペット業界や畜産業の現場での理論や実践を学ぶとともに、生命の尊厳と多様性の保持などについても、ヒトと動物の関係の中で考えさせる。	2		2			30
◇	小動物栄養学Ⅰ	南 奈緒子	学校で飼育する動物の食べているものから、動物の栄養についての基礎を学び、犬や猫の管理の知識を深める。	2	2				30	
◇	小動物栄養学Ⅱ	南 奈緒子	栄養素についての一般常識と、小動物の種や年齢やライフステージによる給餌の実際を修得させ、ペットフード安全法を学ぶ。	2		2			30	

## (ホーストレーニングコース)

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	◇	馬飼育学	原田 喜市 瀬川 毅映	馬の家畜としての歴史や形態機能を基礎から理解することにより、馬の飼育管理および馬術競技についての知識を学ぶ。	4			2	2	60
	◇	エキゾチックアニマル概論	安達 萌花	犬猫以外の愛玩動物全般についての知識を身につけさせ、種によって異なる飼育環境の整備から健康管理を身につけさせる。	2	2				30
	◇	公衆衛生・関係法令	安達 萌花	獣医公衆衛生は動物の健康を介して人間の健康に寄与する教科である。近年の人・動物の共通感染症や生存環境を疫学的及び系統的に理解させる。	2		2			30
	◇	初級トレーニング理論	湯浅 倫枝	犬のしつけ・トレーニングに必要な道具や健康管理の方法、また、犬に関する競技種目について学ぶ。	2	2				30
	◇	中級トレーニング理論	湯浅 倫枝	初級で学んだ知識を基に、犬の行動を深く掘り下げ、トレーニングにどのようにつなげていくかを学ぶ。	2		2			30
	◇	動物行動学Ⅰ	湯浅 倫枝	近代的、科学的な根拠に基づいたしつけトレーニングについて理解を深める。またそれを実際に使う方法を学ぶ。	2	2				30
	◇	動物行動学Ⅱ	湯浅 倫枝	しつけトレーニング理論Ⅰより具体的にジャンル別に学ぶ。犬の種類や目的、目標により必要なトレーニングを理解し、それを組み立てる方法を学ぶ。	2		2			30
実習科目	◆	グルーミング実習Ⅰ	岡田隆三郎	前期では道具の使い方、動物の扱い方に慣れ、仕上げまでの細かな準備や注意点を理解し、スムーズな作業の流れを作る。	4		8			120
	◆	初級トレーニング実習	松尾 里美 湯浅 倫枝	前期では、各犬種の特徴・性格を理解しながら、その犬種に合ったしつけトレーニング方法およびコントロール法を実際の犬を使って学ぶ。	4	2	6			120
	◆	ホーストレーニング実習	原田 喜市 瀬川 毅映	実際の馬の飼育管理に関して実習を通じて体験し、馬の調教も実践的に学び、馬術競技についての初歩的な技術も身につけていく。	32			32	32	960
	◆	動物看護学実習	南 奈緒子	動物看護を実践して学び、動物疾病看護学を学んだ知識を深める。	1	2				30
	◆	動物飼育実習Ⅰ	湯浅 倫枝	学内飼育動物の給餌や運動、ケージの清掃・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	2	2	2			60
	◆	動物飼育実習Ⅱ	湯浅 倫枝	飼育実習Ⅰの経験から、新入生のリーダーとなって学内犬の飼育管理を担当する。学内犬個々について更に理解を増し、体調や目的に合わせた飼育管理を実践する。	2			2	2	60
	◆	卒業研究	安達 萌花	動物について多角的に学んだことをより深く理解し、動物関連業務に主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	2			2	2	60
実習科目	▲	動物園実習	池田動物園 湯浅 倫枝	展示動物を飼育して社会的に多くの役割をもつ動物園での実習をとおして、多種多様な動物を身近に体験する。さらに環境問題や動植物の種の保存について考えるとともに、広く野生動物についての知識を得る。	(2)	(2)	(2)			(60)
	▲	インターンシップ実習		在学中に、自分の就きたい職業を職場の一員となって体験する取り組みで、自立した社会人・職業人となるためには欠かせない実習である。また、就職指導のうえからも大きな成果が期待できる。	(2)			(2)	(2)	(60)
必要修得単位数・時間数					103	36	38	38	38	2,250
						1,110		1,140		

◇必修講義科目   △選択講義科目   ◆必修実習科目   ▲選択実習科目



# 履修科目一覧表

## (ファーム (農場) コース)

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1 年次		2 年次		
						前期	後期	前期	後期	
一般科目	◇	コンピュータ演習 I	頼實 一全	Windows、インターネット、およびオフィスソフト (Word、Excel、PowerPoint) の実用的な利用方法を修得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを修得する。	2	2				30
	◇	コンピュータ演習 II	頼實 一全	ペットショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を修得する。	2		2			30
	◇	キャリアマナー I	長澤さおり	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそう言ってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学びます。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象もぐっと向上します。人に喜んでもらえる対応ができるように、自分をみつめ、知識と教養を身につけていきましょう (サービス接遇 2 級取得を目指す)。	2	2				30
	◇	キャリアマナー II			2		2			30
	◇	コミュニケーションワーク	久保園明美	ホスピタリティ・トレーニングを中心に相互の快い関係を生み出す技術を体得すると共に、多様なレクリエーションを自ら実行できるように基礎的な技術能力の修得、向上を目指す。	2	2				30
	◇	キャリアデザイン	頼實 一全	自分自身の職業人生やキャリアについて、自らが主体となって構想・設計し、実現していくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んでいく。	2	2				30
◇	RS 特別講義	未 定	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2		2			30	
専門科目	◇	イベント運営論	久保園明美	各種イベント事業の起こし方や継続する方法について理解を深める。	2		2			30
	◇	動物ビジネス概論	喜多 秀樹	実際に動物関連の職種に従事している外部講師並びに動物業界の深い専門知識を持たれている人達からの講義を聞き、自分自身の将来像を考える。	2	2				30
	◇	動物飼養管理学 I	湯浅 倫枝	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼養及びペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の修得を目標とし、同時に愛玩動物飼養管理士 2 級資格取得を目標とする。	4	2	2			60
	△	動物飼養管理学 II	奥田 宏健	社会的期待が高まっている愛玩動物飼養管理士 (2 級) 資格所有者を対象に、さらに理論的、科学的に理解を深め、実践的応用力を高める。同管理士 1 級資格取得を目標とする。	(4)			(2)	(2)	(60)
	◇	小動物飼育学	安達 萌花	犬や猫が健康に在るための動物の扱い方・飼育方法・掃除の仕方などの知識を学ぶ。	2	2				30
	◇	産業動物飼育学 I	安達 萌花	家畜飼育の基礎を学ぶことにより、野生動物、家庭動物の位置付けと管理の有り様を実学に即して学習するとともに、産業動物部門への職域の拡大を図る。	2		2			30
	◇	産業動物飼育学 II	安達 萌花	家畜飼育をより深く学ぶことにより、畜産業界の動向や食品生産の現状など産業動物部門への理解を深め、職域の理解を図る。	2			2		30
	◇	人と動物の関係学	湯浅 倫枝	人と動物の関係についての歴史から動物愛護・動物福祉について考え、動物介在活動および教育について学ぶ。またペットロスにおける飼い主へのサポートについても学ぶ。	2	2				30
	◇	動物形態機能学	安達 萌花	獣医学の基礎である解剖・生理学は、動物を飼育管理する上で必要な知識・技術習得に必須の科目である。犬と猫を中心に、動物の複雑な体の構造と機能について、系統的に理解させる。	2	2				30
	◇	動物疾病看護学	亀森 泰之	動物の病気は、その種類、原因、症状だけを見ても多種多様である。動物の専門家として最低知っておくべき動物の病気について、組織器官系統別に分類して理解させる。	2	2				30
◇	寄生虫学・感染症学	安達 萌花	生物は、長い進化の過程で異種の生物との関係を調整しながら生きてきた。その関係は、共生的であったり、寄生的であったりする。特に、ペットと病原体、ペットと寄生虫について科学的に系統的に学ばせ、診断・治療・予防について必要な知識と技術を学ばせる。	2	2				30	
◇	繁殖飼養管理学	安達 萌花	神秘的と思われていた動物の繁殖や遺伝のメカニズムは、科学的に解明されてきた。この繁殖生理を、詳しく理解するとともに、ペットや産業動物の繁殖について学ぶ。また、ペット業界や畜産業の現場での理論や実践を学ぶとともに、生命の尊厳と多様性の保持などについても、ヒトと動物の関係の中で考えさせる。	2		2			30	

## (ファーム (農場) コース)

授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数	
					1 年次		2 年次			
					前期	後期	前期	後期		
◇	家畜繁殖学・蹄管理学	安達 萌花	産業動物飼育管理に必要な知識を得るとともに、国家資格である家畜人工授精師及び削蹄師の資格を取得するための知識を修得する。	2			2		30	
◇	小動物栄養学Ⅰ	南 奈緒子	学校で飼育する動物の食べているものから、動物の栄養についての基礎を学び、犬や猫の管理の知識を深める。	2	2				30	
◇	小動物栄養学Ⅱ	南 奈緒子	栄養素についての一般常識と、小動物の種や年齢やライフステージによる給餌の実際を修得させ、ペットフード安全法を学ぶ。	2		2			30	
◇	エキゾチックアニマル概論	安達 萌花	犬猫以外の愛玩動物全般についての知識を身につけさせ、種によって異なる飼育環境の整備から健康管理を身につけさせる。	2	2				30	
◇	公衆衛生・関係法令	安達 萌花	獣医公衆衛生は動物の健康を介して人間の健康に寄与する教科である。近年の人・動物の共通感染症や生存環境を疫学的及び系統的に理解させる。	2		2			30	
◇	初級トレーニング理論	湯浅 倫枝	犬のしつけ・トレーニングに必要な道具や健康管理の方法、また、犬に関する競技種目について学ぶ。	2	2				30	
◇	中級トレーニング理論	湯浅 倫枝	初級で学んだ知識を基に、犬の行動を深く掘り下げ、トレーニングにどのようにつなげていくかを学ぶ。	2		2			30	
◇	応用トレーニング理論	安達 萌花	作業犬やドッグスポーツの犬についての知識を学ぶ。	2			1	1	30	
◇	メディカルトレーニング理論	前島さおり	愛玩動物も運動不足や栄養過多による肥満及び高齢化にともなう運動器障害等が問題となっている。人と動物が共生するために獣医学を基礎としたリハビリテーション等の知識を修得する。	4			2	2	60	
◇	動物行動学Ⅰ	湯浅 倫枝	近代的、科学的な根拠に基づいたしつけトレーニングについて理解を深める。またそれを実際に使う方法を学ぶ。	2	2				30	
◇	動物行動学Ⅱ	湯浅 倫枝	しつけトレーニング理論Ⅰより具体的にジャンル別に学ぶ。犬の種類や目的、目標により必要なトレーニングを理解し、それを組み立てる方法を学ぶ。	2		2			30	
◇	しつけ教室運営論	湯浅 倫枝	しつけ教室を開くためのノウハウを理解し、実際にできるように体験しながら学ぶ。	2			2		30	
実習	◆	グルーミング実習Ⅰ	岡田隆三郎	前期では道具の使い方、動物の扱い方に慣れ、仕上げまでの細かな準備や注意点を理解し、スムーズな作業の流れを作る。	4		8			120
	◆	グルーミング実習Ⅱ		カットに細かなアレンジを加え、その犬の体型や毛質にあったカットで欠点をカバーし、オーナーの理想に近い仕上げを行う。	4			8		120
	◆	グルーミング実習Ⅲ		トレーニング犬種を中心にシャンプーセットを短時間で仕上げ標準に近い手入れを学習する。	2				4	60
	▲	ハンドリング実習	岡田隆三郎	ハンドラー資格取得を目標とする。	(1)			(1)	(1)	(30)
	◆	初級トレーニング実習	松尾 里美 湯浅 倫枝	前期では、各犬種の特徴・性格を理解しながら、その犬種に合ったしつけトレーニング方法およびコントロール法を実際の犬を使って学ぶ。	4	2	6			120
	◆	中級トレーニング実習	松尾 里美	実習の初級レベルに引き続き、中級レベルでのトレーニング方法およびコントロール法を学ぶ。	4			4	4	120
	◆	応用トレーニング実習	安達 萌花	基本のトレーニングを軸に、ドッグスポーツやそれぞれの犬や年齢に対応した幅広いトレーニングを学ぶ。また、上級のトレーニングをマスターし職業犬、作業犬のトレーニングを学ぶ。	4			4	4	120
	◆	メディカルトレーニング実習	前島さおり	愛玩動物の健康管理に重要なトレーニング技術及び運動障害の改善に必須であるリハビリテーション技術を体験し、今や家族の一員である動物達の老齢介護も学ぶ。	4			4	4	120
	◆	動物看護学実習	南 奈緒子	動物看護を実践して学び、動物疾病看護学を学んだ知識を深める。	1	2				30
	◆	動物飼育実習Ⅰ	湯浅 倫枝	学内飼育動物の給餌や運動、ケージの清掃・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	2	2	2			60
	◆	動物飼育実習Ⅱ	湯浅 倫枝	飼育実習Ⅰの経験から、新入生のリーダーとなって学内犬の飼育管理を担当する。学内犬個々について更に理解を増し、体調や目的に合わせた飼育管理を実践する。	2			2	2	60
	▲	人工授精・削蹄実習	安達 萌花	家畜人工授精は、家畜改良増殖法に基づき家畜の改良増殖を計画的に行うための高度な技術である。この技術を取得することで生命が誕生に至る発生学的な知識も同時に修得できる。	(2)				(4)	(60)

## (ファーム (農場) コース)

授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
					1年次		2年次		
					前期	後期	前期	後期	
▲	産業動物飼育実習	亀森 泰之	家畜の飼育管理は、機械化が進み大規模化されているが、家畜も生命活動を営んでいる動物であることから、家畜の飼育管理には愛玩動物と同様に繊細な観察力と知識が要求されることを自らの体験で学ぶ。	(1)			(2)		(30)
◆	卒業研究	安達 萌花	動物について多角的に学んだことをより深く理解し、動物関連業務に主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	2			2	2	60
▲	動物園実習	池田動物園 湯浅 倫枝	展示動物を飼育して社会的に多くの役割をもつ動物園での実習をとおして、多種多様な動物を身近に体験する。さらに環境問題や動植物の種の保存について考えるとともに、広く野生動物についての知識を得る。	(2)	(2)	(2)			(60)
▲	インターンシップ実習		在学中に、自分の就きたい職業を職場の一員となって体験する取り組みで、自立した社会人・職業人となるためには欠かせない実習である。また、就職指導のうえからも大きな成果が期待できる。	(2)			(2)	(2)	(60)
必要修得単位数・時間数				97	36	38	33	23	1,950
					1,110		840		

◇必修講義科目   △選択講義科目   ◆必修実習科目   ▲選択実習科目



## 講義内容

授業科目	コンピュータ演習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1 年次 (前期)	必修	講義	2 単位
1. 担当者	頼實 一全 実務経験：IT ソリューション会社勤務				
2. 授業目的	現代の情報化社会では、あらゆる分野においてコンピュータの利用は欠かせないものとなっている。本講義では、Windows、インターネット及び Office ソフト (Word、Excel、PowerPoint) の実用的な活用方法、並びにペットビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得することを目指す。				
3. 達成目標	ペットビジネスの現場に必要な書類作成やプレゼン資料作成の基本スキルを身につけると共に、情報モラルや情報セキュリティの基礎知識についても習得していく。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の予習・復習、課題テストに向けた自習など。				
5. テキスト	杉本くみ子・吉田栄子 共著 「30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」 実教出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況 (20%)、課題テスト (50%)、授業成果物 (30%) の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション、Windows 活用 (ウインドウ操作、フォルダ管理、ショートカット)				
2 回	インターネット活用 (様々な情報検索、情報モラルと情報セキュリティ)				
3 回	ワープロ活用 (ニュースレター作成)				
4 回	ワープロ活用 (案内チラシ作成)				
5 回	ワープロ活用 (長文作成)				
6 回	表計算活用 (売上管理表作成)				
7 回	表計算活用 (出荷表作成)				
8 回	表計算活用 (成績表作成)				
9 回	表計算活用 (販売実績グラフ作成)				
10 回	ワープロ・表計算活用 (総合演習①) ※課題テスト①				
11 回	ワープロ・表計算活用 (総合演習②) ※課題テスト②				
12 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成①)				
13 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成②)				
14 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成③)				
15 回	プレゼンテーション活用 (自己紹介スライド作成④)、講義のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	コンピュータ演習 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1 年次 (後期)	必修	講義	2 単位
1. 担当者	頼實 一全 実務経験：IT ソリューション会社勤務				
2. 授業目的	ホームページは情報提供だけでなく、商品販売、サービス提供、集客の手段として大きな役割を担っている。本講義では、ペットショップに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフト (ホームページ・ビルダー) を利用してホームページを制作する方法を習得することを目指す。				
3. 達成目標	ペットショップに必要なコンテンツを自ら考えながらホームページの作成や更新の基本スキルを身につけると共に、デザイン、配色、アクセスビリティ、ユーザービリティ、SEO 対策などに配慮したホームページ作成についても習得していく。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の予習・復習、提出課題に向けた自習など。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況 (20%)、授業成果物 (80%) の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション、ホームページ概要・作成準備				
2 回	ホームページ作成 (フレームページ)				
3 回	ホームページ作成 (ヘッダー、メニュー)				
4 回	ホームページ作成 (トップページ)				
5 回	ホームページ作成 (ショップ案内ページ)				
6 回	ホームページ作成 (スタッフ紹介ページ)				
7 回	ホームページ作成 (リンクページ)				
8 回	地図作成①				
9 回	地図作成②				
10 回	地図作成③				
11 回	ホームページ作成 (アクセスページ)				
12 回	ホームページ作成 (商品一覧ページ)				
13 回	ホームページ作成 (イベントページ)				
14 回	ホームページ作成 (仕上げ)				
15 回	ファイル転送 (アップロード、更新)、講義のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	キャリアマナーⅠ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	長澤 さおり 元 ANA 客室乗務員/接遇コンサルタント				
2. 授業目的	‘相手に喜んでもらうことが自分の喜びとなる’ ことに、働きがい、やりがいを感じる人となることを目指す。『職業人として気持ちの良い環境創りができる力=キャリアマナー』を学び人生の基盤を作る。				
3. 達成目標	サービス接遇検定2級対策より検定2級・3級合格を目指し、接遇者たる知識、技量を習得する。就職活動や働く際に必要なコミュニケーション能力・ビジネスマナーを習得し、実践力を高めます。				
4. 授業時間外に必要な学修	受ける側、提供する側と様々なサービスに触れその意義を考察する。				
5. テキスト	サービス接遇検定『受験ガイド2級、3級』『実問題集2級、3級』/実務技能検定協会/早稲田教育出版ホスピタリティ・マナーテキストブック/榎原陽子/一般社団法人CAネットワーク				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション				
2 回	サービススタッフの資質・姿勢・お辞儀				
3 回	必要とされる要件Ⅰ				
4 回	必要とされる要件Ⅱ				
5 回	従業要件Ⅰ				
6 回	従業要件Ⅱ				
7 回	専門知識・サービ知識				
8 回	敬語・ふさわしい言葉遣いⅠ				
9 回	敬語・ふさわしい言葉遣いⅡ				
10 回	話し方Ⅰ				
11 回	話し方Ⅱ				
12 回	人間関係・接遇知識・服装Ⅰ				
13 回	人間関係・接遇知識・服装Ⅱ				
14 回	サービス接遇検定2級模擬試験				
15 回	前期期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	キャリアマナーⅡ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	長澤 さおり 元 ANA 客室乗務員/接遇コンサルタント				
2. 授業目的	‘相手に喜んでもらうことが自分の喜びとなる’ ことに、働きがい、やりがいを感じる人となることを目指す。『職業人として気持ちの良い環境創りができる力=キャリアマナー』を学び人生の基盤を作る。				
3. 達成目標	サービス接遇検定2級対策より検定2級・3級合格を目指し、接遇者たる知識、技量を習得する。就職活動や働く際に必要なコミュニケーション能力・ビジネスマナーを習得し、実践力を高める。				
4. 授業時間外に必要な学修	受ける側、提供する側と様々なサービスに触れその意義を考察する。				
5. テキスト	サービス接遇検定『受験ガイド2級、3級』『実問題集2級、3級』/実務技能検定協会/早稲田教育出版ホスピタリティ・マナーテキストブック/榎原陽子/一般社団法人CAネットワーク				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	金品管理・金品搬送・社交業務				
2 回	サービス接遇2, 3級実問題集対策①				
3 回	サービス接遇2, 3級実問題集対策②				
4 回	サービス接遇2, 3級実問題集対策③				
5 回	サービス接遇2, 3級実問題集対策④				
6 回	目標確認・キャリア・レポート				
7 回	ファシリテーションとは(実践)				
8 回	PDCA サイクルを回す(実践)				
9 回	自己を知る・性格フィードバック				
10 回	ホスピタリティ				
11 回	ホスピタリティ・コミュニケーション				
12 回	ビジネスマナーⅠ				
13 回	ビジネスマナーⅡ				
14 回	ビジネスマナーⅢ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	コミュニケーションワーク				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	久保園 明美 実務経験：岡山大学・吉備国際大学等非常勤講師				
2. 授業目的	アイスブレイキングやホスピタリティ・トレーニングを中心に、相互の快い関係を生み出す技術を体得する。				
3. 達成目標	人間関係づくりの基礎について理解を深めると共に、実践できるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	レクリエーション支援の基礎 楽しさ 心地よさを活かす理論と技術／日本レクリエーション協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	授業態度・出席状況・定期試験により総合的に評価。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	アイスブレイキング				
3回	〃				
4回	〃				
5回	ホスピタリティ・トレーニング				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	グループワークトレーニング・理論				
10回	〃				
11回	〃				
12回	〃				
13回	グループディスカッション				
14回	〃 ・まとめ				
15回	定期試験				
備考	運動のできる服装(上・下)・シューズが必要である				

## 講義内容

授業科目	キャリアデザイン				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	頼實 一全 実務経験：ITソリューション会社勤務				
2. 授業目的	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生やキャリアについて、自らが主体となって構想・設計し、実現していくことである。本講義では、仕事を通じて実現したい将来像やそのプロセスを明確化し、自分の能力を活かすためのキャリア形成支援から就職活動支援までを行うことを目指す。				
3. 達成目標	自分自身の職業人生やキャリアについて、自らが主体となって構想・設計し、実現していくためにどのように行動すればよいか、セルフワークやチーム学習を通じて気づき学んでいく。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の振り返りと気づき。				
5. テキスト	一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 キャリア・サポート教材開発研究委員会 著 「未来ノート」 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況(15%)、授業への積極的な参加態度(10%)、未来ノート(75%)の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション、チーム学習を進めるために：「話し合いの意義①」				
2回	チーム学習を進めるために：「話し合いの意義②」				
3回	自己理解：「私の大切なもの探し」				
4回	自己理解：「私ってどんな人？」				
5回	自己理解：「自分を知る手がかり①」				
6回	自己理解：「自分を知る手がかり②」				
7回	自己理解：「過去を振り返ろう」				
8回	自己理解：「なぜ働くの？」				
9回	仕事理解：「地図を作ってみよう！」				
10回	仕事理解：「ケーススタディで学ぶ実際の仕事①」				
11回	仕事理解：「ケーススタディで学ぶ実際の仕事②」				
12回	仕事理解：「インタビューしてみよう①」				
13回	仕事理解：「インタビューしてみよう②」				
14回	仕事選択：「職業理解」				
15回	仕事選択：「未来ページ」、講義のまとめ				
備考					

## 講義内容

授業科目	RS 特別講義				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1 年次（後期）	必修	講義	2 単位
1. 担当者	オムニバス形式				
2. 授業目的	学科の専門分野を超えて様々な分野のプロフェッショナルを招き、その真髄に触れることでプロとしての心構えや意識づけを行うことを目的とする。				
3. 達成目標	様々な専門分野における経験や知識の講義を受けて、プロフェッショナルに共通した考え方や感性、ものの見方を学び、それぞれの専門分野に活かす。				
4. 授業時間外に必要な学修	色々な学問分野に幅広い関心と興味を持つこと。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	毎回ごとに提出するレポートと出席状況により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	プロの真髄 ①（心の分野）				
2 回	プロの真髄 ②（ビジネスの分野）				
3 回	プロの真髄 ③ - 1（共生住宅の分野）				
4 回	プロの真髄 ③ - 2（共生住宅の分野）				
5 回	プロの真髄 ④ - 1（自然環境の分野）				
6 回	プロの真髄 ④ - 2（自然環境の分野）				
7 回	プロの真髄 ⑤ - 1（福祉の分野）				
8 回	プロの真髄 ⑤ - 2（福祉の分野）				
9 回	プロの真髄 ⑥ - 1（デザインの分野）				
10 回	プロの真髄 ⑥ - 2（デザインの分野）				
11 回	プロの真髄 ⑦（考古学の分野）				
12 回	プロの真髄 ⑧ - 1（笑いの分野）				
13 回	プロの真髄 ⑧ - 2（笑いの分野）				
14 回	プロの真髄 ⑨（教育の分野）				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	イベント運営論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1 年次（後期）	必修	講義	2 単位
1. 担当者	久保園 明美 実務経験：岡山大学・吉備国際大学等非常勤講師				
2. 授業目的	イベント事業の起こし方や方法、企画書の作り方について学ぶ。				
3. 達成目標	動物に関するイベントを考え、企画書作りからプレゼンテーションまでを行う。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	レクリエーション支援の基礎 楽しさ 心地よさを活かす理論と技術／日本レクリエーション協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	授業態度・出席状況・発表・定期試験により総合的に評価				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション				
2 回	イベント事業の考え方				
3 回	魅力あるイベント作り①				
4 回	〃				
5 回	〃				
6 回	グループ発表				
7 回	A - P I E プロセスについて				
8 回	〃				
9 回	媒体について				
10 回	企画書について				
11 回	魅力あるイベント作り②				
12 回	〃				
13 回	〃				
14 回	プレゼンテーション・まとめ				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物ビジネス概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	喜多 秀樹 実務経験: 加計学園勤務				
2. 授業目的	動物飼育、販売業務を実際に営んでいる事業主及び担当している外部講師を中心に業務内容、経営目標等の講義を聴くことで自分の将来像を考える。				
3. 達成目標	動物飼育、販売業務を実際に営んでいる事業主及び担当している外部講師を中心に業務内容、経営目標等の講義を聴くことで進路選択の幅を広げ、自分の将来像を豊かにする。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、授業態度、レポート等により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	未定				
2回					
3回					
4回					
5回					
6回					
7回					
8回					
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回	総合演習				
15回	期末考査				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼養管理学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(通期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼養及びペットビジネス、動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の修得を目標とし、同時に愛玩動物飼養管理士2級の資格取得を目標とする。				
3. 達成目標	愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指し、愛玩動物の適正飼養や動物愛護、動物関連法令などについて理解を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	資格試験に向けての自主学習。				
5. テキスト	公益社団法人 日本愛玩動物協会 愛玩動物飼養管理士2級 教本/日本愛玩動物協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席及び小テストなどにより、総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	飼養管理士について・動物愛護論	16回	循環犬のしつけ		
2回	人と動物の関係学	17回	猫のしつけ		
3回	動物関係法令	18回	資格取得対策		
4回	〃	19回	〃		
5回	〃	20回	〃		
6回	動物の体の仕組みと働き	21回	〃		
7回	動物の飼養管理	22回	〃		
8回	犬の飼養管理	23回	〃		
9回	猫の飼養管理	24回	〃		
10回	小動物の飼養管理	25回	〃		
11回	鳥類の飼養管理	26回	〃		
12回	〃	27回	〃		
13回	爬虫類の飼養管理	28回	〃		
14回	学習理論	29回	〃		
15回	犬と猫の社会化	30回	定期試験・まとめ		
備考					



授業科目	動物飼養管理学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース フェンシングコース (選択)	講義	4単位
1. 担当者	奥田 宏健 実務経験：県庁勤務、総合病院勤務				
2. 授業目的	社会的期待が高まっている日本愛玩動物飼養管理士(2級)資格所有者を対象に、さらに理論的、科学的に理解を深め、産業動物および実験動物について学ぶ。同管理士1級資格取得を見据え有利な就職に資する。				
3. 達成目標	産業動物、実験動物飼養を理解し、愛玩動物飼養管理士1級を取得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	様々な動物に接触する機会を増やし、動物を体験する。				
5. テキスト	応用動物看護学3(動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学)/監修:水越美奈/インターズー				
6. 参考書	愛玩動物飼養管理士1級教本/公益社団法人日本愛玩動物協会				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物愛護論Ⅱ 動物愛護運動の歴史と展望①	16回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ④		
2回	動物愛護論Ⅱ 動物愛護運動の歴史と展望②	17回	動物の疾病とその予防 その他哺乳類①		
3回	動物関係法令①	18回	動物の疾病とその予防 その他哺乳類②		
4回	動物関連法令②	19回	動物学概論①		
5回	動物の行動と社会①	20回	動物学概論②		
6回	動物の行動と社会②	21回	動物学概論③		
7回	イヌとネコの栄養学①	22回	動物学概論④		
8回	イヌとネコの栄養学②	23回	動物学概論⑤		
9回	動物の遺伝と繁殖生理①	24回	動物学概論⑥		
10回	動物の遺伝と繁殖生理②	25回	動物学概論⑦		
11回	動物の疾病とその予防 総論①	26回	動物学概論⑧		
12回	動物の疾病とその予防 総論②	27回	動物学概論⑨		
13回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ①	28回	動物学概論⑩		
14回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ②	29回	期末試験①		
15回	動物の疾病とその予防 イヌ、ネコ③	30回	期末試験②		
備考					

授業科目	小動物飼育学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	動物を健康的に管理するための飼育方法や感染症、消毒、ワクチンなど基礎知識を学習し身に付け、犬種ごとの特性について歴史と関連付けて理解する。				
3. 達成目標	動物を健康的に管理するための飼育方法や感染症、消毒法、ワクチンなどについて理解し、それぞれについて説明できる。また、犬種ごとの特性について理解し、説明できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	最新犬種図鑑「写真で見る犬種とスタンダード」 インターズー				
6. 参考書	「イヌ・ネコ家庭動物の医学大百科」 山根義久 監修 パイ インターナショナル 「動物の飼育管理」 鎌田壽彦 他著 文永堂出版				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、レポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	飼育について				
2回	狂犬病・犬種調べ(1G)				
3回	ワクチン・犬種調べ(2G)				
4回	ノミの特徴と感染症・犬種調べ(3G)				
5回	ダニの特徴と感染症・犬種調べ(4G)				
6回	フィラリアの特徴と感染症・犬種調べ(5G)				
7回	排泄物の状態から診る健康状態・犬種調べ(6G)				
8回	フードの種類と食物アレルギー・犬種調べ(7G)				
9回	サプリメントの活用・犬種調べ(8G)				
10回	食餌・犬種調べ(9G)				
11回	投薬法と薬剤の種類・犬種調べ(10G)				
12回	消毒法と消毒薬の分類				
13回	発情と繁殖、遺伝病				
14回	疾病				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	産業動物飼育学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次（後期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	家畜飼育の基礎を学ぶことにより、野生動物、家庭動物の位置付けと管理の有り様を実学に即して学習するとともに、産業動物部門への職域の拡大を図る。				
3. 達成目標	家畜の飼養管理、種ごとの形態機能や特徴を理解し、説明することができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	「家畜飼育の基礎」 阿部 亮 他著 農山両村文化協会				
6. 参考書	「家畜人工授精講習会テキスト」 高橋芳幸 他著 日本家畜人工授精協会「これからの乳牛群管理のためのハードヘルス学〈成牛編〉」 及川 伸 著 緑書房「動物飼養学」 石橋 晃 他著 株式会社養賢堂「乳牛栄養学の基礎と応用」 増子孝義 他著 デーリィ・ジャパン社				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	畜産概論（1）家畜について概論				
2 回	畜産概論（2）家畜と環境				
3 回	家畜の栄養（1）家畜における消化吸収の仕組み				
4 回	家畜の栄養（2）飼料の種類および特性				
5 回	家畜の育種（1）遺伝の原理				
6 回	家畜の育種（2）主要形質の遺伝				
7 回	採卵鶏・ブロイラーの飼養管理				
8 回	繁殖豚・肥育豚の飼養管理				
9 回	肉牛の飼養管理				
10 回	乳牛の飼養管理（1）				
11 回	乳牛の飼養管理（2）				
12 回	馬の飼養管理（1）				
13 回	馬の飼養管理（2）				
14 回	馬の飼養管理（3）				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	産業動物飼育学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次（前期）	ファームコース 必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	家畜飼育をより深く学ぶことにより、畜産業界の動向や食品生産の現状など産業動物部門への理解を深め、職域の理解を図る。				
3. 達成目標	家畜の育種や改良、畜産物の生産に重要な繁殖技術について理解を深め、感染症や疾病などに関して基礎知識を修得する。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	未定				
6. 参考書	「家畜人工授精講習会テキスト」 高橋芳幸 他著 日本家畜人工授精協会「新動物生殖学」 佐藤英明 著 朝倉書店「動物飼養学」 石橋 晃 他著 株式会社養賢堂「哺乳動物の発生工学」 佐藤英明 他著 朝倉書店				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	家畜の育種（1）家畜の選抜、交配				
2 回	家畜の育種（2）能力検定				
3 回	家畜の育種（3）家畜登録制度				
4 回	繁殖生理（神経、内分泌及び雌繁殖生理）				
5 回	精子生理（雄繁殖生理）				
6 回	繁殖技術（1）繁殖技術、人工授精器具等の種類と特性				
7 回	繁殖技術（2）精子の採取および検査・保存				
8 回	繁殖技術（3）人工授精				
9 回	家畜の繁殖障害				
10 回	関係法規（1）家畜改良増殖法・獣医師法				
11 回	関係法規（2）家畜伝染病予防法				
12 回	家畜の感染症				
13 回	家畜の疾病と予防（1）				
14 回	家畜の疾病と予防（2）				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	人と動物の関係学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	人と動物の関係について、動物愛護、動物福祉など多方面から人と動物が互いに与えあう影響について考える。				
3. 達成目標	動物愛護、動物福祉など多方面から人と動物が互いに与えあう影響について知り、自分自身の動物に対する考え方を確立することができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物に関するあらゆる情報に興味を持ち、情報収集を行う。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポート、発表など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	人と動物の歴史				
2 回	展示動物について				
3 回	〃				
4 回	〃				
5 回	〃				
6 回	動物が人にもたらす影響				
7 回	〃				
8 回	災害時における動物				
9 回	ペットロスについて				
10 回	〃				
11 回	産業動物について				
12 回	見の周りの動物と自分との関わり				
13 回	〃				
14 回	〃				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物形態機能学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	解剖学・生理学は獣医学の基礎であり、動物の飼育管理を行う上で必要な知識・技術習得に必須の科目である。動物の生体を構成する器官・組織の名称を把握し、機能と関連付けて理解する。				
3. 達成目標	動物の生体を構成する細胞・組織・器官の構造を理解し、その機能を説明できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	「動物のからだの構造と機能」 山本真理子 著 ファームプレス				
6. 参考書	「小動物臨床のための機能形態学入門」 浅野隆司 他著 インターズー「エキゾチックアニマルの診療指針」 霍野晋吉 著 インターズー				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物形態機能学とは(体を構成する器官・組織)				
2 回	染色体・DNA・RNA				
3 回	体を構成する組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)				
4 回	骨格系(骨の種類・機能・構造・関節)				
5 回	筋肉系(1)(筋肉の種類・機能)				
6 回	筋肉系(2)(筋肉の構造・弛緩収縮の仕組み)				
7 回	神経系(1)(神経の種類・構造・機能)				
8 回	神経系(2)(情報伝達の仕組み)				
9 回	器官と器官系(1)消化器系(口腔・咽頭・食道・胃)				
10 回	器官と器官系(2)消化器系(腸・付属消化器官)				
11 回	器官と器官系(3)泌尿器系(腎臓の形態・機能・尿が生産される仕組み)				
12 回	器官と器官系(4)呼吸器系(肺の構造・機能・呼吸の仕組み)				
13 回	器官と器官系(5)循環器系(心臓の構造・機能・血液循環の仕組み)				
14 回	器官と器官系(6)循環器系(血液の成分と働き・免疫のしくみ)				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物疾病看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次（前期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	動物を取り扱う専門家として最低限知っておくべき動物の病気について、その種類、原因、症状を学ぶとともに、動物の取り扱いや予防方法を学ばせる。				
3. 達成目標	疾病により機能障害を持つ動物に対して、どのような内容の看護を提供すべきかを導き出せるよう看護の知識を身に付けさせる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物病院などへのインターンシップに積極的に参加し、知見を広める。				
5. テキスト	イラストでみる犬の病気 小野憲一郎他 講談社				
6. 参考書	コンパニオン・アニマルの看護技術学 浅野妃美・浅野隆司共著 インターズー				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物の看護について				
2 回	保定法				
3 回	投薬法				
4 回	注射法				
5 回	輸液法				
6 回	神経系・眼の病気				
7 回	呼吸器の病気				
8 回	消化器の病気				
9 回	泌尿器の病気				
10 回	血液の病気				
11 回	皮膚の病気				
12 回	入院動物の看護				
13 回	子猫や子犬の看護				
14 回	老猫や老犬の看護				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	寄生虫学・感染症学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次（前期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	ペットが家族の一員として生活することが社会に認知されるに伴い、人と動物の間に生じる人獣共通感染症は生活を脅かす要因の一つである。寄生虫症や感染症について学ぶことにより、診断・治療・予防について必要な知識を身に付ける。				
3. 達成目標	各寄生虫の種類や特性、生活環を理解し、感染経路等予防について説明することができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前に配布資料に目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	資料配布				
6. 参考書	「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠寄生虫病学」日本獣医師寄生虫学会 監修 緑書房「小動物寄生虫鑑別マニュアル」今井壮一 監修 インターズー				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	寄生虫総論				
2 回	線虫類（1）線虫類総論				
3 回	線虫類（2）回虫、鉤虫、糞線虫				
4 回	線虫類（3）鉤眼虫、糸状虫				
5 回	条虫類（1）条虫類総論				
6 回	条虫類（2）瓜実条虫、エキノコックス属条虫、マンソン裂頭条虫				
7 回	吸虫類（1）吸虫類総論				
8 回	吸虫類（2）壺形吸虫、日本住血吸虫				
9 回	原虫類 アメーバ類、鞭毛虫類、コクシジウム類				
10 回	外部寄生虫（1）ノミ総論 ノミ媒介性感染症				
11 回	外部寄生虫（2）ダニ総論 ダニ媒介性感染症				
12 回	感染症概論とワクチン ワクチンの種類				
13 回	犬の感染症				
14 回	猫の感染症				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	繁殖飼養管理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	動物の繁殖や遺伝のメカニズムを詳しく理解するとともに、ペットや産業動物の繁殖について学ぶ。また、ペット業界や畜産業の現場での理論や実践を学ぶとともに、生命の尊厳と多様性の保持などについても、ヒトと動物の関係の中で考えさせる。				
3. 達成目標	受精および受精後の発生ならびに形成過程について理解し、種付けから妊娠、分娩までの過程を説明できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	「動物看護のための小動物繁殖学」 筒井敏彦 著 ファームプレス				
6. 参考書	「家畜人工授精講習会テキスト」 高橋芳幸 他著 日本家畜人工授精協会「新動物生殖学」佐藤英明 著 朝倉書店「哺乳動物の発生工学」 佐藤英明 他著 朝倉書店				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物の繁殖について				
2 回	動物の生殖器の解剖 (1)				
3 回	動物の生殖器の解剖 (2)				
4 回	動物の生殖器の解剖 (3)				
5 回	動物の繁殖生理 (神経・内分泌及び雌繁殖生理) (1)				
6 回	動物の繁殖生理 (神経・内分泌及び雌繁殖生理) (2)				
7 回	動物の繁殖生理 (神経・内分泌及び雌繁殖生理) (3)				
8 回	種付け理論と妊娠の飼養管理 (1)				
9 回	種付け理論と妊娠の飼養管理 (2)				
10 回	妊娠期間と分娩の飼養管理 (1)				
11 回	妊娠期間と分娩の飼養管理 (2)				
12 回	助産の管理				
13 回	周産期の飼養管理 (1)				
14 回	周産期の飼養管理 (2)				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	家畜繁殖学・蹄管理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(前期)	ファームコース 必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	家畜繁殖及び蹄管理など産業動物の飼育管理に必須な知識を修得し、産業動物分野への職域の拡大を図る。				
3. 達成目標	理等を理解することで、削蹄師等の資格取得を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	「牛削蹄師入門」 公益社団法人 日本装蹄師協会「家畜人工授精講習会テキスト」 高橋芳幸 他著 日本家畜人工授精協会				
6. 参考書	「新動物生殖学」 佐藤英明 著 朝倉書店「これからの乳牛群管理のためのハードヘルス学(成牛編)」 及川 伸 著 緑書房「哺乳動物の発生工学」 佐藤英明 他著 朝倉書店「乳牛栄養学の基礎と応用」 増子孝義 他著 デーリィ・ジャパン社				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	雌牛の生殖器の解剖				
2 回	雄牛の生殖器の解剖				
3 回	牛の繁殖生理 (神経、内分泌及び雌繁殖生理) ①				
4 回	牛の繁殖生理 (神経、内分泌及び雌繁殖生理) ②				
5 回	牛の繁殖生理 (神経、内分泌及び雌繁殖生理) ③				
6 回	牛の繁殖生理 (神経、内分泌及び雌繁殖生理) ④				
7 回	牛の精子生理 (雄繁殖生理) ①				
8 回	牛の精子生理 (雄繁殖生理) ②				
9 回	牛の精子生理 (雄繁殖生理) ③				
10 回	牛の精子生理 (雄繁殖生理) ④				
11 回	種付けの理論 (妊娠と分娩)				
12 回	牛削蹄概論				
13 回	牛の肢蹄の構造				
14 回	基本的な削蹄法について				
15 回	期末試験				
備考					



## 講義内容

授業科目	小動物栄養学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	6大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、犬や猫などそれぞれの動物種に必要な栄養バランスやライフステージに合った栄養管理について学ぶ。				
3. 達成目標	6大栄養素の身体の中での働きや役割について理解し、その動物の食性に応じて必要な栄養素とバランスについて把握する。ライフステージに合った1日に必要なエネルギー量を算出できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物の栄養状態は、体型や被毛・皮膚の状態、呼吸状態、行動に現れる。日頃から動物をよく観察し、観察眼を養う。				
5. テキスト	犬と猫の栄養学／著者：奈良なぎさ／緑書房				
6. 参考書	ペット栄養管理学テキストブック／アドスリー				
7. 成績評価	期末試験を主体に授業態度を含め総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	食べることは生きること				
2回	栄養素とエネルギー				
3回	エネルギー要求量				
4回	栄養素(水)				
5回	栄養素(炭水化物)①				
6回	栄養素(炭水化物)②				
7回	栄養素(タンパク質)①				
8回	栄養素(タンパク質)②				
9回	栄養素(脂質)				
10回	栄養素(ビタミン)				
11回	栄養素(ミネラル)				
12回	犬と猫の食性の違い				
13回	犬と猫に与えてはいけない食材				
14回	ペットフードについて				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	小動物栄養学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	小動物栄養学Ⅰで修得した小動物栄養学の基礎をもとにして、ライフステージに合った栄養管理方法や、疾患治療としての栄養管理、それに必要な療法食の特徴についてなど、臨床栄養学を学ぶ。				
3. 達成目標	犬猫のライフステージに合わせた栄養管理ができ、疾病に応じて必要な栄養素を理解し、適切な食餌を飼い主に提案できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	動物の栄養状態は、体型や被毛・皮膚の状態、呼吸状態、行動に現れる。日頃から動物をよく観察し、観察眼を養う。				
5. テキスト	犬と猫の栄養学／著者：奈良なぎさ／緑書房				
6. 参考書	ペット栄養管理学テキストブック／アドスリー				
7. 成績評価	期末試験を主体に授業態度を含め総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	ライフステージ別栄養管理①				
2回	ライフステージ別栄養管理②				
3回	肥満と栄養管理				
4回	尿路の病気と栄養管理(腎臓)				
5回	尿路の病気と栄養管理(尿石症)				
6回	皮膚の病気と栄養管理				
7回	食物有害反応と食物アレルギー				
8回	消化器の病気と栄養管理(下痢と便秘)				
9回	内分泌の病気と栄養管理				
10回	心臓の病気と栄養管理				
11回	関節の病気と栄養管理				
12回	腫瘍と栄養管理				
13回	手術後の栄養管理				
14回	総復習				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	馬飼育学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ホースコース 必修	講義	4単位
1. 担当者	原田 喜市(実務経験:株式会社ノア 代表取締役) 瀬川 毅映(実務経験:株式会社ノア 勤務)				
2. 授業目的	馬の家畜としての歴史や形態機能を基礎から理解することにより、馬の飼育管理および馬術競技についての知識を学ぶ。				
3. 達成目標	馬飼育牧場では、馬の飼育管理技術を基礎から身に付けた飼育管理者や乗馬インストラクターが求められている。そこで、実践に役立つ技術とトレーニングを重ねた専門技術職を養成する。				
4. 授業時間外に必要な学修	馬飼育牧場などへのインターンシップに積極的に参加し、馬の飼育に関する知見を広める。				
5. テキスト	HORSECARE MANUAL 改訂版 COLIN VOGEL 著 インターズー LET'S ENJOY RIDING 改訂版 日本中央競馬会馬事公苑著 全国乗馬倶楽部振興協会				
6. 参考書	馬術への誘い京大馬術部事始 山田武、高桑浩彰監修 恒星社厚生閣 イラストでわかるホースコミュニケーション PERRY WOOD 著 緑書房 正しい姿勢で乗る・馬具の装着 渡辺弘・楠瀬良 監修 緑書房				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	馬の歴史・進化と馬の種類	16 回	馬の飼育・管理(馬の運動と身体能力について)		
2 回	〃	17 回	〃		
3 回	馬体の外貌各部及び骨格の名称	18 回	馬装具類の種類と取り扱い		
4 回	〃	19 回	〃		
5 回	馬の肢と関節、蹄及び歩法と動作	20 回	放牧地や牧柵・ゲートなどでの管理		
6 回	〃	21 回	〃		
7 回	馬体の仕組みと生理	22 回	厩舎内での馬の管理		
8 回	〃	23 回	〃		
9 回	馬の飼育・管理(日常管理)	24 回	給餌方法と栄養要求量等		
10 回	〃	25 回	〃		
11 回	馬の飼育・管理(ハンドリングや制御の方法)	26 回	濃厚飼料と粗飼料の種類と重要性		
12 回	〃	27 回	〃		
13 回	馬の飼育・管理(四肢の検査・装蹄について)	28 回	馬の病気と出産		
14 回	〃	29 回	〃		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	エキゾチックアニマル概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	愛玩動物として犬猫以外のエキゾチックアニマルの需要が高まっており、ペット業界のニーズに対応していくため、種ごとの解剖生理や飼育管理、疾病について幅広い知識を身に付ける。				
3. 達成目標	動物ごとの特徴や飼育管理について理解し、疾病について説明できる。				
4. 授業時間外に必要な学修	毎授業前にテキストに目を通し、概略を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	「エキゾチック動物の看護」 斉藤久美子 著 ファームプレス				
6. 参考書	「カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編」 霍野晋吉 他著 緑書房				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	エキゾチックアニマル総論 飼育小動物の分類				
2 回	野生動物と飼育動物 鳥獣保護管理法				
3 回	各動物の基礎知識と飼育管理法① (ウサギ)				
4 回	各動物の基礎知識と飼育管理法② (チンチラ)				
5 回	各動物の基礎知識と飼育管理法③ (モルモット)				
6 回	各動物の基礎知識と飼育管理法④ (ハムスター類)				
7 回	各動物の基礎知識と飼育管理法⑤ (スナネズミ)				
8 回	各動物の基礎知識と飼育管理法⑥ (マウス・ラット)				
9 回	各動物の基礎知識と飼育管理法⑦ (プレーリードッグ)				
10 回	各動物の基礎知識と飼育管理法⑧ (フェレット)				
11 回	各動物の基礎知識と飼育管理法⑨ (ハリネズミ)				
12 回	各動物の飼養疾病と看護Ⅰ				
13 回	各動物の飼養疾病と看護Ⅱ				
14 回	各動物の飼養疾病と看護Ⅲ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	公衆衛生・関係法令				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次（後期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	獣医公衆衛生学を分かりやすく解説し、我が国の健康課題の状況や関係法令、人と動物の共通感染症についての知識を身につけ動物従事者としての責務を再確認する。				
3. 達成目標	公衆衛生の概念や健康の定義について防疫の観点から理解し、説明することができる。				
4. 授業時間外に必要な学修	文献やニュース、インターネット等で、国民衛生の動向を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書	「獣医公衆衛生学Ⅰ」 獣医公衆衛生学教育研修協議会 編 文永堂出版「獣医公衆衛生学Ⅱ」 獣医公衆衛生学教育研修協議会 編 文永堂出版				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、毎授業後に課すレポートの提出、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	公衆衛生並びに獣医公衆衛生概論：公衆衛生の定義、理念、内容				
2 回	疾病予防総論その1：感染症の機序、感染症の成立、過程				
3 回	疾病予防総論その2：感染症の機序、感染症の流行の機序及び様式				
4 回	疾病予防総論その1：防疫の原則、滅菌、消毒				
5 回	疾病予防総論その2：防疫の原則、消毒法				
6 回	疾病予防各論その1：人と動物の共通感染症 関係法令				
7 回	疾病予防各論その2：我が国に発生の見られる人・動物の共通伝染病				
8 回	疾病予防各論その3：人と動物の寄生虫病				
9 回	食品衛生概論その1：食品衛生の概要 屠畜、食品加工、食品の変質、食品の保存				
10 回	食品衛生概論その2：食中毒概論 食品の媒介による伝染病				
11 回	食品衛生各論：食品添加物、衛生管理				
12 回	環境衛生概論：地球環境、環境衛生、環境生理				
13 回	環境衛生各論：水、待機、汚水、汚物、ゴミ、被服				
14 回	公衆衛生法規				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	初級トレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次（前期）	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	犬の基本的なしつけ・トレーニングを学び、それに伴う必要な道具や健康管理の方法などを修得する。				
3. 達成目標	犬のトレーニング理論を学ぶことで、動物全般のトレーニングについての理解を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト	訓練基本マニュアル／ジャパンケネルクラブ				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験及び出席、授業態度などで総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	犬具の使い方と種類				
2 回	トレーニングに必要な健康管理・保定				
3 回	犬の骨格形成・犬体名称				
4 回	〃				
5 回	様々なトレーニング法				
6 回	〃				
7 回	〃				
8 回	犬の遊び行動				
9 回	〃				
10 回	〃				
11 回	トレーニングのレベルアップについて				
12 回	〃				
13 回	〃				
14 回	〃				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	中級トレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	初級トレーニング理論で学んだ知識を基に動物の学習の方法を知り、さらに犬に関する競技種目についての知識を修得する。				
3. 達成目標	動物のトレーニングについての知識を深め、また各種競技が果たす役割を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト	訓練基本マニュアル/ジャパンケネルクラブ 今日から始めるアジリティー/進藤誠/インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験及び出席、授業態度などで総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	犬を扱う団体・資格				
2 回	犬の繁殖・血統書について				
3 回	〃				
4 回	〃				
5 回	犬に関する競技・ドッグスポーツ				
6 回	〃				
7 回	犬の行動理解				
8 回	〃				
9 回	〃				
10 回	〃				
11 回	〃				
12 回	〃				
13 回	問題行動について				
14 回	〃				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	応用トレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース ファームコース (必修)	講義	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	ドッグトレーニングコースでは作業犬やドッグスポーツをする犬についての知識を修得し、ファームコースでは削蹄師などの資格に関する知識を修得する。				
3. 達成目標	ドッグトレーニングコースでは作業犬やドッグスポーツをする犬についての知識を修得し、訓練士の資格取得を目指す。ファームコースでは削蹄師などに関する知識を修得し、資格取得を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	授業で行った内容を復習し、授業前に参考書等で概要を把握しておくことが望ましい。				
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書	「訓練基本マニュアル」 ジャパンケネルクラブ「今日から始めるアジリティー」 進藤誠 著 インターズー「災害救助犬トレーニング運用ハンドブック」 村瀬英博 著 イカロス出版				
7. 成績評価	レポートおよび出席、授業態度で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	ドッグショー				
2 回	〃				
3 回	〃				
4 回	ディスクドック				
5 回	〃				
6 回	ドッグダンス				
7 回	〃				
8 回	動物介在活動				
9 回	〃				
10 回	〃				
11 回	災害救助犬				
12 回	〃				
13 回	〃				
14 回	アジリティー				
15 回	〃				
備考	各競技、教員の変更あり。ファームコースでは削蹄師や人工授精師など資格取得に関する講習会に参加する。				

## 講義内容

授業科目	メディカルトレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (必修)	講義	4単位
1. 担当者	前島 さおり 実務経験：犬のリハビリテーション認定資格(CCRP)取得、動物リハビリ広場院長				
2. 授業目的	犬および猫に対するリハビリテーションの意義、実際について臨床的に学ぶ。				
3. 達成目標	動物の運動器障害に対するリハビリテーションの知識・技術を学ぶだけでなく、疾患の予防、介護、肥満管理、衛生・環境管理など多方面から動物と家族の生活を豊かにする方法を修得すること。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出席、授業態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	総論、オリエンテーション	16 回	運動療法各論		
2 回	解剖・前肢	17 回	膝蓋骨内包脱臼のリハビリ 1		
3 回	解剖・後肢	18 回	膝蓋骨内包脱臼のリハビリ 2		
4 回	解剖・体幹	19 回	前十字靭帯損傷のリハビリ 1		
5 回	専門用語	20 回	前十字靭帯損傷のリハビリ 2		
6 回	神経	21 回	大腿骨頭切除術のリハビリ 1		
7 回	適応疾患、主観的評価(問診)	22 回	大腿骨頭切除術のリハビリ 2		
8 回	客観的評価1(歩様・外貌・ROM)	23 回	骨折のリハビリ		
9 回	客観的評価2(整形・神経検査)	24 回	骨折の外固定法		
10 回	ゴールの設定、治療の効果・選択	25 回	猫のリハビリ		
11 回	マッサージ	26 回	ダイエットプログラム		
12 回	PROM運動、ストレッチ	27 回	椎間板ヘルニアのリハビリ		
13 回	物理療法	28 回	高齢犬(骨関節炎)のリハビリ、老犬介護		
14 回	運動療法総論	29 回	変性性脊髄症のリハビリ		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物行動学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	犬の肉体的、感覚的能力の基本的な事柄を学び、行動発達や種の特性を理解する。				
3. 達成目標	犬の能力や特性について知ること、犬が出す様々な行動について理解できるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物について、行動学をふまえた視点で動物の行動を考察してみる。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポートなど総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物及び犬の家畜化				
2 回	犬種の特徴				
3 回	〃				
4 回	〃				
5 回	ボディランゲージ				
6 回	〃				
7 回	「遊び」について				
8 回	ストレス反応				
9 回	学習理論				
10 回	〃				
11 回	〃				
12 回	子犬の成長・社会化				
13 回	〃				
14 回	〃				
15 回	定期試験				
備考					



## 講義内容

授業科目	動物行動学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	猫の肉体的、感覚的能力の基本的な事柄や行動発達を学び、さらに犬猫の問題行動の治療と予防法を習得する。				
3. 達成目標	猫の能力や特性、行動について理解し、また犬猫の問題行動の対処法を説明できるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物について、行動学をふまえた視点で動物の行動を考察してみる。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポート、発表など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の問題行動コンサルタント				
2回	〃				
3回	〃				
4回	〃				
5回	〃				
6回	〃				
7回	猫の家畜化・猫の特徴				
8回	子猫の成長・社会化				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	老犬猫の行動の変化				
13回	〃				
14回	まとめ				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	しつけ教室運営論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(前期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (必修)	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	子犬や成犬などに合わせたしつけ教室を組み立てる技術を学ぶ。				
3. 達成目標	しつけ教室を開くにあたって、犬の月齢に合わせた内容や飼い主への説明やサポートができるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、レポート、発表など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	教室運営				
2回	〃				
3回	〃				
4回	人とのコミュニケーション				
5回	パピー教室 クラス運営				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	〃				
10回	初級のしつけ教室 クラス運営				
11回	〃				
12回	〃				
13回	問題行動対応				
14回	〃				
15回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(後期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	岡本 侑也 実務経験：トリミングサロン勤務				
2. 授業目的	正しいブラッシングやコーミング、犬に対しての適切な力の使い方、犬の扱い方を正しく学ぶ。				
3. 達成目標	犬の保定法をしっかりと覚える。道具の正しい使い方を覚える。肌の汚れを綺麗に落とし、ムラのないシャンプーとドラインを行えるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況と実習態度を総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	ブラッシング、爪切り				
2回	耳掃除、クリッパー練習				
3回	シャンプー、ブロー				
4回	小型犬のシャンプー実習				
5回	大型犬のシャンプー実習				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	〃				
13回	〃				
14回	〃				
15回	実習テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(前期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (必修)	実習	4単位
1. 担当者	岡本 侑也 実務経験：トリミングサロン勤務				
2. 授業目的	ブラッシングやシャンプー等の細かな指導、ハサミを使用して足回りのカット等の技術を学ぶ。				
3. 達成目標	モデル犬一頭を一人で最初から最後まで仕上げることができる。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況と実習態度を総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	大型犬、小型犬のシャンプー実習				
2回	ハサミを使用して足回りのカット				
3回	大型犬、小型犬のシャンプー実習				
4回	〃				
5回	〃				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	〃				
13回	〃				
14回	〃				
15回	実習テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(後期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (必修)	実習	2単位
1. 担当者	岡本 侑也 実務経験：トリミングサロン勤務				
2. 授業目的	1年次のグルーミング実習で学んだシャンプーのスキルを高齢犬、膝、腰の弱いモデル犬に対しても骨格の仕組みを考えた優しいグルーミングを目指す。				
3. 達成目標	今まで行っていたグルーミング時間をモデル犬の負担の少ない短い時間でできること。				
4. 授業時間外に必要な学修	グルーミング授業でシャンプーしてきたモデル犬の種類の原産国、歴史的な用途、習性や性格などをJKC犬種標準図鑑をもとに学習しておく。				
5. テキスト	適時資料配布する。				
6. 参考書	ジャパンケネルクラブ全犬種標準書 (スタンダードブック)				
7. 成績評価	グルーミング実習で学んできた技能を総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬種に応じたシャンプー実習(小型・大型犬種、短吻犬種など)				
2回	〃				
3回	〃				
4回	〃				
5回	〃				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	〃				
13回	〃				
14回	〃				
15回	実習中の実技テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	グルーミング実習Ⅳ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(後期)	ドッグトレーニングコース 必修	実習	2単位
1. 担当者	岡本 侑也 実務経験：トリミングサロン勤務				
2. 授業目的	大型犬、小型犬に限らず高齢犬に負担のないできる限り短い時間で作業を行う。				
3. 達成目標	就職先でも通用するシャンプークオリティを目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	適時資料配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習中での技能判断と実習態度などで総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬種に応じたグルーミング実習(大型犬とその他各犬種)				
2回	〃				
3回	〃				
4回	〃				
5回	〃				
6回	〃				
7回	〃				
8回	〃				
9回	〃				
10回	〃				
11回	〃				
12回	〃				
13回	〃				
14回	〃				
15回	実習中での技能判断テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	ハンドリング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (選択)	実習	1単位
1. 担当者	岡田 隆三郎 プロフェッショナルドッグハンドラー スノービルケネル代表				
2. 授業目的	トリミング実習に役立つスタック、ドッグショーで行うハンドリングマナーの習得、またジャパンケネルクラブ公認ハンドラーライセンス取得を目指す。				
3. 達成目標	トリミングテーブル上の 各犬種の正しい姿勢を学びモデル犬に負担を最小限に作業を終了させること、また犬種スタンダードを理解した上でのショーイング。				
4. 授業時間外に必要な学修	定期的なハンドリング犬のグルーミング、ベーシック作業を行うことで信頼関係を育む。				
5. テキスト	資料配布				
6. 参考書	ジャパンケネルクラブ ハンドリングマニュアル (公認ハンドラー教本)				
7. 成績評価	実技テスト出席状況など総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	ハンドリングとドッグショーの歴史				
2 回	犬の解剖学 (解剖学) 知ってハンドリングしよう。				
3 回	ドッグショーで審査員は何を見て評価しているのか。				
4 回	リードの使い方 (リードワーク)・種類、歩様、歩行の解説。				
5 回	ハンドリングマナー初級編 (審査を受けるマナー)				
6 回	ハンドリング試験とハンドリング実習				
7 回	ハンドリング実習				
8 回	ハンドリング実習				
9 回	ハンドリング実習				
10 回	ハンドリング実習				
11 回	ハンドリング実習				
12 回	ハンドリング実習				
13 回	ハンドリング実習				
14 回	ハンドリング実習				
15 回	実技テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	初級トレーニング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(通期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	松尾 里美 (実務経験: ラブドッグスクール経営) 湯浅 倫枝 (実務経験: 児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師)				
2. 授業目的	犬のトレーニングの基本を学ぶことで、動物共通の飼育やトレーニング法を修得する。				
3. 達成目標	犬の基本的なトレーニングの技術を身に付け、動物とのコミュニケーション技術を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト	訓練基本マニュアル/ジャパンケネルクラブ				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、出席などにより総合的に評価する				
授業内容とスケジュール					
1 回	犬種について	16 回	犬の服従訓練		
2 回	犬の健康管理	17 回	〃		
3 回	犬とのコミュニケーション	18 回	〃		
4 回	〃	19 回	ドッグスポーツ		
5 回	〃	20 回	〃		
6 回	〃	21 回	〃		
7 回	犬の基礎トレーニング	22 回	校外研修		
8 回	〃	23 回	〃		
9 回	〃	24 回	〃		
10 回	〃	25 回	〃		
11 回	〃	26 回	〃		
12 回	〃	27 回	〃		
13 回	〃	28 回	〃		
14 回	〃	29 回	〃		
15 回	中間試験	30 回	定期試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	中級トレーニング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース ファームコース (必修)	実習	4単位
1. 担当者	松尾 里美 (実務経験：ラブドッグスクール経営)				
2. 授業目的	初級トレーニング実習での基礎をもとに、さらに犬種や犬それぞれの性格に合わせたトレーニングを修得し、深めていく。				
3. 達成目標	学内犬に実際に触れながら犬のトレーニング技術を深め、さらにトレーニング法を人に伝えることができるようになる。				
4. 授業時間外に必要な学修	学内飼育動物や身近な動物の飼育、しつけトレーニングでの応用実践を行う。				
5. テキスト	訓練基本マニュアル/ジャパンケネルクラブ				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、出席などにより総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の様々な訓練法	16回	犬の様々な訓練法		
2回	〃	17回	〃		
3回	〃	18回	〃		
4回	〃	19回	〃		
5回	〃	20回	〃		
6回	〃	21回	〃		
7回	〃	22回	〃		
8回	〃	23回	〃		
9回	〃	24回	〃		
10回	〃	25回	〃		
11回	校外研修	26回	校外研修		
12回	〃	27回	〃		
13回	〃	28回	〃		
14回	〃	29回	〃		
15回	中間試験	30回	中間試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	応用トレーニング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース ファームコース (必修)	実習	4単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	ドッグトレーニングコースでは作業犬やドッグスポーツをする犬についての知識と技術を修得し、ファームコースでは削蹄師などの資格に関する知識と技術を修得する。				
3. 達成目標	ドッグトレーニングコースでは作業犬やドッグスポーツをする犬についての知識と技術を修得し、訓練士の資格取得を目指す。ファームコースでは削蹄師などに関する知識と技術を修得し、資格取得を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修	授業で行った内容を復習し、技術の習得に鍛錬することが望ましい。				
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書	「訓練基本マニュアル」 ジャパンケネルクラブ 「今日から始めるアジリティー」 進藤誠 著 インターズー 「災害救助犬トレーニング運用ハンドブック」 村瀬英博 著 イカロス出版				
7. 成績評価	課題レポート提出および出席、授業態度で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	ドッグショー・ディスクドッグ	16回	ドッグダンス・動物介在活動		
2回	〃	17回	〃		
3回	〃	18回	〃		
4回	〃	19回	〃		
5回	〃	20回	〃		
6回	〃	21回	〃		
7回	〃	22回	〃		
8回	〃	23回	〃		
9回	ドッグダンス・動物介在活動	24回	〃		
10回	〃	25回	校外研修		
11回	〃	26回	〃		
12回	〃	27回	〃		
13回	〃	28回	〃		
14回	〃	29回	訓練試験		
15回	〃	30回	〃		
備考	各競技、教員の変更あり。ファームコースでは削蹄師や人工授精師など資格取得に関する講習会に参加する。				

## 講義内容

授業科目	メディカルトレーニング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	ドッグトレーニングコース フェームコース (必修)	実習	4単位
1. 担当者	前島 さおり 実務経験：犬のリハビリテーション認定資格(CCRP)取得、動物リハビリ広場院長				
2. 授業目的	犬および猫に対するリハビリテーションに必要な検査手技やリハビリ技術を習得する。				
3. 達成目標	動物のリハビリテーションの基礎知識を理解した上で、症例ごとに治療プロトコルが検討・立案・実施できる能力を身につけること。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	配布資料				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席、授業中の課題発表、授業態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	総論、オリエンテーション	16回	運動療法各論		
2回	解剖・前肢	17回	膝蓋骨内包脱臼のリハビリ1		
3回	解剖・後肢	18回	膝蓋骨内包脱臼のリハビリ2		
4回	解剖・体幹	19回	前十字靭帯損傷のリハビリ1		
5回	専門用語	20回	前十字靭帯損傷のリハビリ2		
6回	神経	21回	大腿骨頭切除術のリハビリ1		
7回	適応疾患、主観的評価(問診)	22回	大腿骨頭切除術のリハビリ2		
8回	客観的評価1(歩様・外貌・ROM)	23回	骨折のリハビリ		
9回	客観的評価2(整形・神経検査)	24回	骨折の外固定法		
10回	ゴールの設定、治療の効果・選択	25回	猫のリハビリ		
11回	マッサージ	26回	ダイエットプログラム		
12回	PROM運動、ストレッチ	27回	椎間板ヘルニアのリハビリ		
13回	物理療法	28回	高齢犬(骨関節炎)のリハビリ、老犬介護		
14回	運動療法総論	29回	変性性脊髄症のリハビリ		
15回	サブリメント	30回	予備		
備考					

## 講義内容

授業科目	ホーストレーニング実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学部	2年次(通期)	ホースコース 必修	実習	32単位
1. 担当者	原田 喜市(実務経験：株式会社ノア 代表取締役) 瀬川 毅映(実務経験：株式会社ノア 勤務)				
2. 授業目的	実際の馬の飼育管理に関して実習を通じて体験し、馬の調教も実践的に学び、馬術競技についての初歩的な技術も身に付けていく。				
3. 達成目標	馬飼育牧場では、馬の飼育管理技術を基礎から身に付けた飼育管理者や乗馬インストラクターが求められている。そこで、実践に役立つ技術とトレーニングを重ねて専門技術職を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修	馬飼育牧場などへのインターンシップに積極的に参加し、馬の飼育に関する知見を広める。				
5. テキスト	HORSECARE MANUAL 改訂版 COLIN VOGEL 著 インターズー LET'S ENJOY RIDING 改訂版 日本中央競馬会馬事公苑著 全国乗馬倶楽部振興協会				
6. 参考書	馬術への誘い 京大馬術部事始 山田武、高桑浩彰 監修 恒星社厚生閣 イラストでわかるホースコミュニケーション PERRY WOOD 著 緑書房 正しい姿勢で乗る・馬具の装着 渡辺弘・楠瀬良 監修 緑書房				
7. 成績評価	期末試験の評点に実習・受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	乗馬の基礎的な説明	16回	基本馬術⑥		
2回	乗馬の準備(馬具・服装等)	17回	基本馬術⑦		
3回	馬の取り扱い①	18回	基本馬術⑧		
4回	馬の取り扱い②	19回	基本馬術⑨		
5回	馬の取り扱い③	20回	馬の管理①		
6回	馬の取り扱い④	21回	馬の管理②		
7回	馬の取り扱い⑤	22回	馬の管理③		
8回	馬の取り扱い⑥	23回	馬の管理④		
9回	馬の取り扱い⑦	24回	馬の管理⑤		
10回	基本馬術①	25回	馬の管理⑥		
11回	基本馬術②	26回	馬の管理⑦		
12回	基本馬術③	27回	馬の管理⑧		
13回	基本馬術④	28回	馬の管理⑨		
14回	基本馬術⑤	29回	馬の管理⑩		
15回	期末試験	30回	期末試験		
備考					



## 講義内容

授業科目	動物看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	南 奈緒子 実務経験：動物病院勤務				
2. 授業目的	動物疾病看護学など、講義で学んだ動物看護技術を実践を通して身につけ、動物看護の知識を深める。				
3. 達成目標	動物の保定、身体検査などの各種臨床検査方法、デンタルケア方法など、動物飼育の基本となる看護技術を身につけ、動物の健康管理に役立てること。				
4. 授業時間外に必要な学修	授業で学んだ技術を使って、身の回りの動物の健康管理に役立てることで、技術力を高める。				
5. テキスト	動物看護実習テキスト／編集：山下真理子ほか／インターズー				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験と出席状況、授業態度により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	動物の看護について				
2 回	保定方法①				
3 回	保定方法②				
4 回	保定具の種類と装着方法				
5 回	身体検査とバイタルチェック①				
6 回	身体検査とバイタルチェック②				
7 回	寄生虫の種類と予防方法				
8 回	薬の調剤と投薬方法①				
9 回	薬の調剤と投薬方法②				
10 回	歯科疾患の予防とデンタルケア方法				
11 回	臨床検査で使用する器具の種類と扱い方				
12 回	便検査方法				
13 回	尿検査方法				
14 回	総まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼育実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	学内飼育動物の給餌や運動、ケージの清掃・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや扱い方を学ぶ。				
3. 達成目標	動物種の行動や習性・食性に応じて、それぞれに適切な飼育環境と管理を行うことができること。				
4. 授業時間外に必要な学修	さまざまな動物の種類・品種を覚える。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	学内飼育動物の世話と管理①	16 回	学内飼育動物の世話と管理⑮		
2 回	学内飼育動物の世話と管理②	17 回	学内飼育動物の世話と管理⑯		
3 回	学内飼育動物の世話と管理③	18 回	学内飼育動物の世話と管理⑰		
4 回	学内飼育動物の世話と管理④	19 回	学内飼育動物の世話と管理⑱		
5 回	学内飼育動物の世話と管理⑤	20 回	学内飼育動物の世話と管理⑲		
6 回	学内飼育動物の世話と管理⑥	21 回	学内飼育動物の世話と管理⑳		
7 回	学内飼育動物の世話と管理⑦	22 回	学内飼育動物の世話と管理㉑		
8 回	学内飼育動物の世話と管理⑧	23 回	学内飼育動物の世話と管理㉒		
9 回	学内飼育動物の世話と管理⑨	24 回	学内飼育動物の世話と管理㉓		
10 回	学内飼育動物の世話と管理⑩	25 回	学内飼育動物の世話と管理㉔		
11 回	学内飼育動物の世話と管理⑪	26 回	学内飼育動物の世話と管理㉕		
12 回	学内飼育動物の世話と管理⑫	27 回	学内飼育動物の世話と管理㉖		
13 回	学内飼育動物の世話と管理⑬	28 回	学内飼育動物の世話と管理㉗		
14 回	学内飼育動物の世話と管理⑭	29 回	学内飼育動物の世話と管理㉘		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	動物飼育実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次（通期）	必修	実習	2単位
1. 担当者	湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	動物飼育実習Ⅰで学んだ飼育・健康管理を応用し動物に応じた飼育・健康管理を学ぶ。また集団管理において重要となる感染症予防について学ぶ。				
3. 達成目標	学内飼育動物それぞれの種類による飼育管理方法を学び、実践する。				
4. 授業時間外に必要な学修	さまざまな動物の種類・品種を覚える。				
5. テキスト	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	学内飼育動物の世話と管理①	16 回	学内飼育動物の世話と管理⑮		
2 回	学内飼育動物の世話と管理②	17 回	学内飼育動物の世話と管理⑯		
3 回	学内飼育動物の世話と管理③	18 回	学内飼育動物の世話と管理⑰		
4 回	学内飼育動物の世話と管理④	19 回	学内飼育動物の世話と管理⑱		
5 回	学内飼育動物の世話と管理⑤	20 回	学内飼育動物の世話と管理⑲		
6 回	学内飼育動物の世話と管理⑥	21 回	学内飼育動物の世話と管理⑳		
7 回	学内飼育動物の世話と管理⑦	22 回	学内飼育動物の世話と管理㉑		
8 回	学内飼育動物の世話と管理⑧	23 回	学内飼育動物の世話と管理㉒		
9 回	学内飼育動物の世話と管理⑨	24 回	学内飼育動物の世話と管理㉓		
10 回	学内飼育動物の世話と管理⑩	25 回	学内飼育動物の世話と管理㉔		
11 回	学内飼育動物の世話と管理⑪	26 回	学内飼育動物の世話と管理㉕		
12 回	学内飼育動物の世話と管理⑫	27 回	学内飼育動物の世話と管理㉖		
13 回	学内飼育動物の世話と管理⑬	28 回	学内飼育動物の世話と管理㉗		
14 回	学内飼育動物の世話と管理⑭	29 回	学内飼育動物の世話と管理㉘		
15 回	期末試験	30 回	期末試験		
備考					

## 講義内容

授業科目	人工授精・削蹄実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次（後期）	ファームコース 選択	実習	2単位
1. 担当者	安達 萌花				
2. 授業目的	国家資格である家畜人工授精師及び装蹄師の資格取得を目標として、その知識と技術を身に付けさせる。				
3. 達成目標	国家資格である家畜人工授精師及び装蹄師の知識と技術を身に付け、資格の取得を目指す。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	「牛削蹄師入門」 公益社団法人 日本装蹄師協会 「家畜人工授精講習会テキスト」 高橋芳幸 他著 日本家畜人工授精協会				
6. 参考書	「これからの乳牛群管理のためのハードヘルス学〈成牛編〉」 及川伸 著 緑書房 「動物飼養学」 石橋晃 他著 株式会社養賢堂 「乳牛栄養学の基礎と応用」 増子孝義 他著 デーリィ・ジャパン社 「新ルーメンの世界 微生物生態と代謝制御」 小野寺良太 他著 農山両村文化協会				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、提出物、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	家畜の飼養管理（1）				
2 回	家畜の飼養管理（2）				
3 回	牛の削蹄実習（1）				
4 回	牛の削蹄実習（2）				
5 回	牛の削蹄実習（3）				
6 回	人工授精技術における実習（1）				
7 回	人工授精技術における実習（2）				
8 回	人工授精技術における実習（3）				
9 回	人工授精技術における実習（4）				
10 回	人工授精技術における実習（5）				
11 回	人工授精技術における実習（6）				
12 回	人工授精技術における実習（7）				
13 回	人工授精技術における実習（8）				
14 回	人工授精技術における実習（9）				
15 回	総合演習				
備考					

## 講義内容

授業科目	産業動物飼育実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(前期)	ファームコース 選択	実習	1単位
1. 担当者	亀森 泰之 実務経験：家畜診療所勤務				
2. 授業目的	民間の牧場及び養鶏場において実習を行うことで、産業動物飼育の現状を深く理解し、動物飼育に対する高度な知識と技術を高める。				
3. 達成目標	民間の牧場及び養鶏場において実習を行うことで、牧場の構造や経営形態、産業動物飼育の現状を深く理解し、より現場的な知識と技術を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	未定				
6. 参考書	「これからの乳牛群管理のためのハードヘルズ学〈成牛編〉」 及川伸 著 緑書房 「動物飼養学」 石橋晃 他著 株式会社養賢堂 「乳牛栄養学の基礎と応用」 増子孝義 他著 デーリィ・ジャパン社 「新ルーメンの世界 微生物生態と代謝制御」 小野寺良太 他著 農山両村文化協会				
7. 成績評価	出席状況と授業態度、提出物、期末試験などによって総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	民間の産業動物施設における実習 家畜の飼養管理				
2回	"				
3回	"				
4回	"				
5回	"				
6回	"				
7回	"				
8回	"				
9回	"				
10回	"				
11回	"				
12回	"				
13回	"				
14回	"				
15回	総合演習				
備考					

## 講義内容

授業科目	動物園実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	1年次(通期)	選択	実習	2単位
1. 担当者	池田動物園 湯浅 倫枝 実務経験：児童センター児童厚生員・公立小・中学校常勤講師				
2. 授業目的	社会的に多くの役割を持つ動物園での実習を通して多種多様な動物を身近に感じながらケアを体験する。さらに環境問題や動植物の種の保存について考えると共に、広く野生動物についての知識を得る。				
3. 達成目標	展示動物の飼育を通して、幅広い飼育の知識、環境問題や動植物の種の保存について見識を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	野生動物を取り巻く種の保存や環境問題やについて目を向ける。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	池田動物園の飼育係による評価を参考に行う。				
授業内容とスケジュール					
1回	年2回、7日連続で池田動物園での実習に参加する。		16回		
2回			17回		
3回			18回		
4回			19回		
5回			20回		
6回			21回		
7回			22回		
8回			23回		
9回			24回		
10回			25回		
11回			26回		
12回			27回		
13回			28回		
14回			29回		
15回			30回		
備考					

## 講義内容

授業科目	卒業研究				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	亀森 泰之・湯浅 倫枝・安達 萌花				
2. 授業目的	動物について多角的に学んだことをより深く理解し、動物関連業務に主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。				
3. 達成目標	実験や調査で得られたデータを的確に整理・解析し、その結果を文献から収集した情報を用いて考察し、論文にまとめることができる。また、研究成果を分かりやすく説明し、プレゼンテーション能力を身に付け、多面的な視点から物事の理解を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	より深い研究を行うにあたって自ら必要な知識や情報を常に収集しておくことが望まれる。				
5. テキスト	専門領域のすべての教科書				
6. 参考書	専門領域のすべての教科				
7. 成績評価	日頃の研究態度、口頭発表、卒業論文によって総合して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	課題研究		16 回	課題研究	
2 回	"		17 回	"	
3 回	"		18 回	"	
4 回	"		19 回	課題研究要旨作成	
5 回	"		20 回	"	
6 回	"		21 回	課題研究論文作成	
7 回	"		22 回	"	
8 回	"		23 回	"	
9 回	"		24 回	"	
10 回	"		25 回	"	
11 回	課題研究要旨作成		26 回	"	
12 回	"		27 回	"	
13 回	課題研究論文作成		28 回	"	
14 回	"		29 回	"	
15 回	中間発表		30 回	研究発表	
備考					

## 講義内容

授業科目	インターンシップ実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物飼育トレーニング学科	2年次(通期)	選択	実習	2単位
1. 担当者	チューター、就職課、インターン実習先の担当者				
2. 授業目的	就労希望業種にインターンとして原則1週間の実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識の経験を積む。				
3. 達成目標	就労希望業種にインターンとして原則1週間の実習を行い、実際の仕事と社会体験を通じ、即戦力となる知識の経験を積む。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	報告書などの提出、インターンシップ先からの評価表から総合的に認定される。				
授業内容とスケジュール					
1 回	実習希望、受け入れ実習先等		16 回		
2 回	を調整のうえ、随時実施する		17 回		
3 回			18 回		
4 回			19 回		
5 回			20 回		
6 回			21 回		
7 回			22 回		
8 回			23 回		
9 回			24 回		
10 回			25 回		
11 回			26 回		
12 回			27 回		
13 回			28 回		
14 回			29 回		
15 回			30 回		
備考					